

学校図書館支援通信



179号

令和5年度 市川市教育センター

授業力アップ 研修会

4年目研修にて、学校図書館活用の授業が各学校で展開されています。どの先生も図書館の活用方法について模索し、教科を問わず積極的な取り組みが見られます。学校司書が授業に入り、出典の書き方や本の扱い方、日本十進分類法について改めて指導している学校も見られました。今回は、公開授業の一部をご紹介します。

国府台小学校

「おはなしどうぶつえんをひらこう！」動物が出てくる本を読んで、紹介カードを書きました。奥付を見て作者を書くことも学びました。

宮久保小学校「自動車を作る工業」

“調べ学習アイテム”として、教科書・資料集・本・インターネット・新聞・テレビ・ラジオのメリット／デメリットについて学びました。授業では、本とインターネットを併用して調べ学習を行いました。

第四中学校「Lesson4 USE Write」

自分の行きたい国について、地図帳や図書資料を用いて調べました。情報カードを利用してまとめたあと、図書資料を活用する効果について考えました。

小1 国語

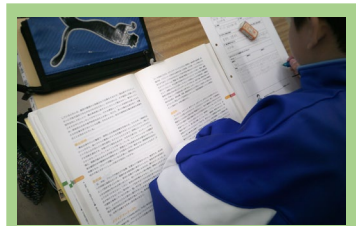


小4 社会

二俣小学校

「情報化した社会と産業の発展」～情報を生かす産業～
テレビ・新聞等のメディアの良さについて、調べました。学校司書からは「出典」の書き方や本の扱い方についての話がありました。

小5 社会



小6 国語

行徳小学校「きつねの窓（安房直子）」
同作者の並行読書を行い、書評を書くというゴールに向かって学習を進めました。導入時には、学校司書による安房直子作品のブックトークも行われました。

中2 英語

中1 総合

第一中学校「勤労」

友達の性格や特技を知り、『13歳のハローワーク』（著者：村上龍）を使って、ぴったりの職業を見つけました。本を介して、自分の将来を見つめました。



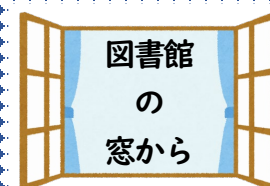
ブッククリスマスミニコンサート in第五中

「絵本の読み聞かせ」「ギター＆ウクレレ アンサンブル」「全員で合唱」の3部構成で行われ、図書館内がクリスマスのお話と音楽に包まれました。



絵本の読み聞かせは、図書委員会の生徒によって行われました。本の選定を含め昼休みと放課後を使って練習を積み重ねたそうです。

先生方のアンサンブルと全員合唱も相まって、生徒たちは図書館での楽しい思い出ができたことでしょう。



巨大本制作は、後期最初の専門委員会にて司書教諭から生徒へ作業の説明を行い、各先生へ「おすすめの一冊」を依頼する担当者を決めます。自分の担当の先生とクラスの生徒の原稿を回収したら、それをクラスごとに大きな板に貼っていきます。



↑巨大本 作業風景

大洲中学校では、11月中旬から『巨大本』と呼ばれるものの制作が始まり、12月に作業のピークを迎えました。

この巨大本は10年を超える歴史があり、生徒と教職員の全員が参加しています。3年生の図書委員にとっては卒業制作のようなものと言えます。

まだ慣れていない下級生をやさしく指導する3年生の姿や、学年ごとに和気あいあいと作業している光景が見られ、ほのぼのとした気持ちになりました。完成後は、生徒たちみんなで喜び合う姿も見られました。



↑巨大本

市川市立大洲中学校 学校司書 渡邊 満暢

きみにもできる！ぼうさい in下貝塚中学校



【体験ブース①】



【体験ブース②】



【展示コーナー】

体験ブース①「地震が起きたら」

部屋中に物が散乱する中、どのように避難したらよいのかを体験することができました。

体験ブース②「いろいろなもので応急手当」

身近にあるタオルを使って、けがの応急処置を学ぶことができました。

展示コーナー「備蓄品、関連図書資料」

災害時に必要となる実物（市川市地域防災課より借用）や資料（ネットワーク便にて収集）を見ることができました。本を手に取り、念入りに読む生徒の様子も見られました。



『学校図書館支援通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市教育センター

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4

TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

<https://www.city.ichikawa.lg.jp/edu17/122100001.html/>